

「農村医学の父」と呼ばれた故・若月俊一医師の下、「農民とともに」を合言葉に掲げ、地域医療に大きな足跡を刻んできた佐久総合病院は昨年、創立80周年を迎えました。同年は、専門医療と急性期医療を担う佐久医療センターの新設を柱とする大胆な病院機能の分割・再構築からも10年で、小海診療所の開設70周年など付属施設の節目も重なりました。今は物価高騰や患者数減少で病院経営の難しさが伝えられています。同病院の新たなスタートに当たり渡辺仁統括院長に聞きました。

予防の意識さらに向上へ

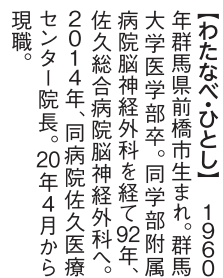
佐久総合病院・渡辺仁統括院長に聞く

地域と歩む原点に回帰

コロナ禍以前から人口は減り始めていたので、患者数が減ることは仕方ありません。高齢者が増える一方で若手は減る社会、そこで私たちは何ができるのか。これまでも言われてきた「キョウアからケアへ」、すなわち病気の治療が中心ではなく、病気を抱えたままでも身体的・精神的・社会的に支えることを中心に据えて、医療や介護を実践していくのが一つです。また「病気になるまいよう



佐久総合病院本院



渡辺仁 佐久総合病院統括院長

「わたなべ・ひとし」1960年群馬県前橋市生まれ。群馬大学医学部卒。同学部附属病院脳神経外科を経て92年、佐久総合病院脳神経外科へ。2014年、同病院佐久医療センター院長。20年4月から現職。

予防として自分が何をできるのか、住民が生活の中で見出す手掛りを提供すること。そして病気がなくなったとしても、早めに受診して重症化させないようにサポートすることがあります。そのために健診や人間ドックを含めた丁寧な案内が必要です。「住民が自ら健康を管理するための運動としては、若月先生が病院創設間もない時期から地域に出向き、診療の傍ら、自らの脚で演劇を上



昨年未だに開いた車座集会「佐久総合病院本院の救急体制と救急外来へのかかり方。医師の働き方改革を機に見直された本院の救急体制をテーマに、集まった50人ほどの住民と意見交換。渡辺仁統括院長をはじめとした病院職員が、参加者のさまざまな意見や要望に丁寧に答えていました。地域ニーズを直接聞くことができる場として今後も続けていきたいそうです(「うすだ健康館」にて、佐久総合病院提供)

した。例えは遠方から透析に通う患者さんからは、週3回通う手段の確保が大変との声がありました。最寄りの医療機関で(透析が)できればいいのですが、そのために新たに医療スタッフや設備を整えてもらうのは現実的ではありません。対策として巡回バスなども考えられますが、私たちが運営が難しいため、行政に

働きやすい環境づくり

一方で、いわゆる生産年齢人口と呼ばれる働き手は少なくなっています。そこでどう病院を運営していくのか。AI(人工知能)の導入あるいはDX(デジタルトランスフォーメーション)により、いろいろなソフトや機器を使って一部の仕事を肩代わりさせることもできるでしょう。とはいえ、医療の本質である「人同士が向き合っている仕事は欠かせません」。

医療と一体の文化活動

昔も今も、一番は「地域の方々のニーズに対して、私たちがどう対応できるか」にかかっています。若月先生の言われた「予防は治療にまさる」は、時代により変化する真実であり、住民の皆さんに「自分たちの健康は自分たちで守る」という意識を高めていただくことが、私たちの昔からの願いです。

そのために、JA長野厚生連健康管理センターを中心に1973年から全県の集団健康スクリーニングを実施してきました。一方で若月先生は晩年、「医療の民主化は、まだ2、3割しかできていない」と評価していました。人の意識を変えるのは、とても大変なことなのです。

*佐久総合病院理念

佐久病院は「農民とともに」の精神で、医療および文化活動をつうじ、住民のいのちと環境を守り、生きがいのある暮らしが実現できるような地域づくりと、国際保健医療への貢献を旨とします。

当院は理念に「医療および文化活動をつうじ」という一節があります。演劇や音楽、スポーツなど文化活動は医療と一体であり、同時に住民と医療の間をつなぐ大切な架け橋です。これからも病院を通じて文化活動に取り組んでいきます。



私たちの国で消費するたべものは、できるだけこの国で生産する。国産消費にJAGグループは取り組んでいます。



食と農で地域に笑顔をつくります

組合員・地域とともに食と農を支える協同の力の発揮

おはようございます

JA木曾 中部支所 金融共済課 合戸 加奈江



JAといえば、地域密着、お客さまとの距離が近いことが強みです。その中でも、JA共済は、お客さまの暮らしに確かな安心をお届けすることができます。困った人をつくらぬように、一軒でも多く訪問し、一人でも多くの方にお目にかかりたいと考えています。よりJAを身近に感じていただけるよう、これからも活動してまいります。

健康 Q & A

BNP値が高いと指摘

Q 検診で、BNP高値を指摘されましたが、どのようにすればよいでしょうか。(70歳、男性)

A BNPはBrain Natriuretic Peptide(脳性ナトリウム利尿ペプチド)の略で、最近、非常に増加している心不全の程度を表すマーカーです。当初ブタの脳から発見されたため、脳性と名前がついています。正常範囲は、18.4pg/ml以下で100pg/mlを超えると、治療対象となる心不全の可能性があり、200pg/mlを超えると、その可能性が高いといわれています。

また、症状のない方でも、35pg/mlを超える場合には、精査が推奨されています。スクリーニングとして胸部レントゲン、心電図、血液検査に加え、心エコー(心臓超音波検査)が有用です。

心エコーでは、駆出率(EF)が計測でき、駆出率40%未満で心機能が低下している場合と、駆出率50%以上の心機能が維持されている場合で、ガイドラインで治療方針が分かれますので、経過観察、内服治療などの方向付けが可能です。

なお、心不全の予防には、高血圧、肥満、糖尿病の有無、禁煙、多量飲酒を避ける、運動に留意が必要です。

(JA長野厚生連長野松代総合病院 循環器内科部長 三澤卓夫)

お知らせボード

★A・コープで「信州の畜産酪農キャンペーン」

16日(日)まで。県内のA・コープ店で信州産の豚肉、牛肉やその加工品、卵、牛乳・乳製品を5点以上購入したことが分かるレシート(複数枚合算も可)を一口として、各店舗に備え付けてある専用チラシを使って応募。抽選で信州プレミアム牛肉ステーキセット(特別賞5人)など計65人によりすぐりの県産畜産酪農産品をプレゼント。併せて飼料価格の高騰など厳しい環境が続いている県内生産者への応援メッセージや製品への意見も募集します。

JA全農長野畜産酪農課 ☎026・236・2217